

郡山市日和田地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 適切な排水対策や雑草防除を実施し、収量の安定化と高品質な大豆生産を図る。
- 収量や品質の安定化により収益が向上し、水田農業経営の安定化が図られる。



2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 概ね5年程度の大豆作でブロックローテーション（水稲→大豆→水稲）
- 地域農業の担い手として、耕作ができなくなった方の農地を借り受けており年々作付面積が拡大。水稲作との労力分散や収益確保のため、大豆栽培を拡大。

■作付面積の推移

	H27	R3	R5
水稲	41.4	57.7	66.4
（内直播）	23.7	15.6	15.7
大豆	17.3	21.2	23.8
合計	58.7	78.9	90.2

（単位：ha）

3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた生産の取組>

- 実需者の要望を踏まえ、平成29年から「里のほほえみ」に品種を切替え

<適切な排水対策や雑草、病害虫防除による収量・品質の安定化>

- 額縁明渠やサブソイラ、自動操舵トラクタでの畝立同時播種による湿害対策
- ディスク型中耕培土+茎葉処理除草剤による雑草防除
- ドローンによる適期病害虫防除

<安定した農業所得の確保>

- 水稲+大豆作による労力分散
- JAから大豆の乾燥調製作業を受託し収益確保と冬季労力を有効活用



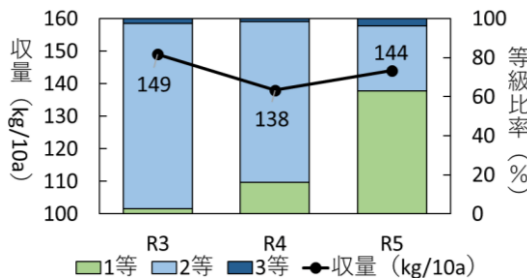
4 取組成果

<大豆生産の高位安定化を実現>

- 収量の安定、品質の向上が図られている。
単収：149 kg/10a (R3) → 144 kg/10a (R5)
1等の比率：2.8% (R3) → 62.8% (R5)

<安定した農業所得の確保>

- 販売収入+交付金により、安定した収入を確保している。
水稲収入：約105,000円/10a (R5)、大豆収入：約89,000円/10a (R5)



5 課題（6年度のポイント）

- 令和5年産では、雨天等により一部のほ場で播種作業が遅れた。次年度は、現在よりも播種速度が速い機械を導入し、高速作業体系による適期作業の実施を検討している。また、播種作業が遅れた場合には、播種量を増やすことで苗立ち数を確保し、収量確保を図る。